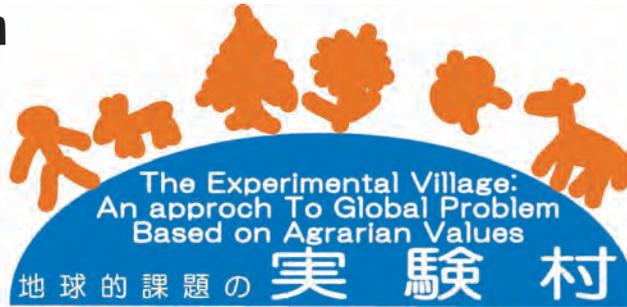


2016年11月18日



第67号

HYAKUSHO-HYAKUSHO. HYAKUSHO-HYAKUSHO.

百姓百生

その60

俺たち百姓は怒っている！

菅原庄市さん

HYAKUSHO-HYAKUSHO. HYAKUSHO-HYAKUSHO.

「庄市」という立派な名前はあるのだが、彼の仲間にならって「ショウベエ」といつも呼んでいる。山形県置賜地域おきたまのいっかくにある白鷹町しらたかで代々の百姓を構える彼の家は、当主は代々「ショウベエ」と名乗ってきたという話を聞いたことがある。しかし庄市は当主になる前から仲間内では「ショウベエ」になってしまった。それで、彼の結婚式のとき、あいさつに立った彼のおやじさんが「私が本物のショウベエです」と改めて確認したのがおかしかった。



彼の連れ合いのヒキと彼が出会ったのは1989年。当時武藤一羊さんが率いていたP A R Cアジア太平洋資料センターがアジア太平洋地域の民衆運動の担い手数百人をぼくたちが住むこの弧状列島に呼びこんで「ピープルズ・プラン21」という壮大な催しを列島各地で行った。ぼくはその農民交流の部門のコーディネーターを受け、受け入れてくれた置賜百姓交流会の面々とたびたび会う機会があった。ヒキは当時P A R Cのスタッフだった。英語が堪能で、アジアやアメリカ、ヨーロッパの農民や農業関係者の面倒をみるため置賜にやってきた。ショウベエは当時20代の終わりごろ。こんなふうに出会って、やがてヒキが農家の嫁になり、すでに四半世紀。自分たちの結婚がよかったかどうかなど、当事者も周りも永久にわかりはしないが、お互

い退屈は決してしなかったはずで、これはたぶんいいことなのだと思う。

軽く180センチを超える巨漢で確か柔道四段か五段のはず。ゆっくりと考えながら、ときにオオとうなりたくなるようないいことをいう。もうかれこれ10年も前、夜中にジージーとファックスが鳴って、墨黒々と「俺たち百姓は怒っている！ ○日朝、役場前に集まれ！」という紙がはきだされた。それだけしか書いてない。こんなF A Xをいきなり送りつけるのはショ

ウベエくらいだとあたりをつけ、西沢江美子と汽車に乗って年末の寒い朝、白鷹町の役場前に立ったら、案の定ショウベエ、トミオ、カネダ君ら白鷹町の置賜百姓交流会の仲間が顔をそろえ、次々をやってくる町の百姓衆を迎えて集会が始まった。

昨年の安保国会の時には「戦争やんだ！にしおきたま西置賜集会」をや

りショウベエ、トミオ、長井のワカといった置賜百姓交流会の若手が真ん中に座っている人々と協力してやり遂げ、その流れを広げて置賜版市民連合とでもいうものに仕上げ、護憲と反T P Pの舟山やすえを参議院に押し出す原動力となった。

とにかく頑固で、この流れの最中、トミオが「もう顔も見たくない」とぼやいたりもしたが、それはお互いさまで、この二人が顔をそろえたらとにかく最強の陣形ができる。今年還暦というから、むらではまだ若い衆。若いもの同士、世のため人のために頑張ってください。

写真：2016年2月、辺野古の座り込みに参加、マイクを握るショウベエ

(大野和興)

# 木の根ペンション補修完了

ペンション修繕カンパへのご協力

ありがとうございます

実験村の三里塚現地活動拠点でもある「木の根ペンション」の雨漏りがひどくなったのは、季節はずれの台風が次々と来襲した6月でした。

はじめは「屋根の一部張替え」程度の修繕工事と思っていたのですが、費用の見積のために調べてもらうと、あちこちに長年にわたる傷みが見つかり、足場を組んでの本格的な—それでも修繕以上ではないのですが—補修が必要なが判明し、費用も200万円を超えることが確実となりました。そんな訳で、皆様にカンパをお願いすることになった次第です。

ありがたいことに、実験村、反対同盟、大地共有委員会それぞれの呼びかけにこたえて下さった皆様のカンパは、必要な修繕費用を大幅に超過して達成され、ペンションの補修工事も無事に完了することができました。

あらためて皆様にカンパのお礼を申し上げるとともに、新装なった木の根ペンションの見学がてら、三里塚現地にも足をお運びいただきますようお願いする次第です。

2016年11月

地球的課題の実験村事務局・佐々木希一



## 住めば都

ペンション住人の丸山航介です。

木の根ペンションの屋根と外壁が新しくなりました！ シンボルだった大時計は外され、さっぱりとした印象です。

工事が完了し、今年は2回の音楽イベントが催されました。

しかし長年にわたるペンションの痛みは激しく、玄関のガラス戸や一部の窓はピッタリと閉まりません。先日の台風の際には雨漏りもありました。

私としては、延命治療のような補修工事ではなく、これからの木の根ペンションのあり方、使われ方を見据えた抜本的な工事の方が良かったのでは？ と思ったりもしますが、具体的な案もお金もないので住まわせてもらえるだけで十分です。

「こんなところには絶対に住めない！」がペンションの第一印象でしたが住めば都、今はここでの生活を楽しんでいます。というわけで、木の根ペンション補修工事費のカンパをよろしくお願ひします！



# 今年もやります！ 有機農業映画祭

毎年、地球的課題の実験村が協賛・協力している国際有機農業映画祭も、今年で10回目を迎えます。今年は、「未来を引きよせる」をテーマに下記の通り開催します。今回の上映は7作品。そのうち3作品は日本初上映です。また、国際有機農業映画祭開催のきっかけとなった『食の未来』もアンコール上映いたします。このほか、「有機農業運動がめざしたもの、めざすもの」をテーマに10周年記念シンポジウムも開催します。

(大野和興)

## 国際有機農業映画祭2016



日時：12月18日（日）9：30～19：10

会場：武蔵大学 江古田キャンパス 1号館〔B1〕1002シアター教室

アクセス：西武池袋線「江古田」下車5分

地図：<http://www.yuki-eiga.com/access>

参加費：一般：前売 1,500円・当日 2,000円

25歳以下：前売 500円・当日 1,000円

(前売りチケットは大野までお申し込みを。090-4175-4967)

### 上映作品の紹介

#### ●『狂った蜂』

[日本初公開] (台湾制作)

世界各地で発生したミツバチの大量失踪や大量のミツバチが巣箱で死んだりするCCD（蜂群崩壊症候群）の主要な原因の一つとされるネオニコチノイド系農薬の影響を追った台湾テレビ台の作品。ミツバチは穀物の受粉の1/3を担うといわれている



ように、CCDは養蜂家だけでなく、世界の農業にも甚大な被害をもたらすといわれている。ネオニコチノイド系農薬は、ミツバチばかりか人の神経系への影響も指摘され、ADHD（注意欠陥多動性障害）の原因が疑われている。地球規模で起こっている異変は、他の生物や人体にどのような影響をもたらすのか。作品は、台湾と米国での現状と研究の成果を報告する

#### ●『毒のサイクル』

[日本初公開] (米国制作)

米国政府は2000年、有機リン系農薬エンドスルファン（別名ベンゼエピン）について、危険であるとして米国内での使用を禁止した。しかし、その一方で、海外への輸出を禁止

することなく認めていた。安全が確立されないとしながら、なぜ禁止農薬の海外輸出を黙認し続けるのか。禁止農薬はどこへいくのか、そしてその農薬がもたらす被害は農民の健康被害だけなのか。インドやアルゼンチンでの健康被害の実態を明らかにし、その農薬を使った農作物が米国に輸入されるという「毒のサイクル」へ警鐘を鳴らし、農薬がもたらす問題点と危険な農薬がなくなる背景を探す作品。



#### ●『ブルックリンの屋上農園』

[日本初公開] (米国制作)

米国ニューヨーク市ブルックリン地区の倉庫街が舞台。倉庫の屋上を使い、大規模に野菜を栽培する都市農業の新たな展開を描いた作品。化石燃料を大量に消費しながら、遠くから食料を運ぶことに問題を感じた都会の若者たちが、都会の食料を都会で作ろうと立ち上がる。今まで利用されてこなかった倉庫の屋上に土を運び入れ、種をまく。収穫した作物をCSAで販売し、正規に雇用し、きちんと



賃金を払う営利事業として拡大していく様子を描いている。昨年上映した『都市を耕す』に続く、都市農業の新しい潮流を追った作品。

### ●『福島 生き物の記録 シリーズ4 生命』

福島第一原発事故から1年後の2012年4月、野生動物の生態と環境の記録を撮り続けてきた岩崎雅典さんが、カメラを持って福島に入る。福島の生きものたちの生態は？ 被曝の状況は？ カメラに映し出されたツバメの白い斑点や被曝牛たち。大学の研究者や野鳥の会など市民団体と連携し、報告書を出すように毎年作品を発表してきた。シリーズ4は、2015年から2016年にかけての記録。原発から200キロ離れた奥日光のニホンシカから高線量の放射能が検出されたことや、有害鳥獣として駆除される動物の被曝調査など、マスコミでは報道されない貴重な証言が原発事故の実態を知らせている。



### ●『アフガニスタン』

#### 用水路が運ぶ恵みと平和 技術編』

かつては国民の7割が農業に従事してきた緑豊かな国、アフガニスタン。しかし、度重なる大干ばつのため大地が砂漠化し、国土は草1本生えない荒地と変貌した。人々は飢えに苦しみ、難民になるか傭兵になるか、もしくは餓死するかまで追い詰められる。そんな悲惨な状況下、現地で医療支援をするNGOペシャワール会の中村哲医師たちは、人々の生命を救うには大地に緑をよみがえらせることだ



と、大規模な用水路の整備に取り掛かる。それは、日本の河川の治水技術を応用し、村人自らが維持管理できる技術の導入でもあった。東京ドーム3500個分の荒地を農地へという壮大な計画は、見事な成果を遂げる。「空爆ではなく農村の整備を」「武器よりも農の伝統的な技術を」とした中村医師の取組みが、目に見える形で映し出される。平和への道は、武器よりも食の保障ということを見事に実証した。

### ●『大地の学校』

「国際有機農業映画祭」に参加して有機農業に関心をもった志賀元清さんは、日本有機農業研究会の生産者が行っていた東京都足立区都市農業公園の畑に足を運ぶ。『大地の学校』は、志賀さんが、そこで出会った9名の有機農業の生産者それぞれの農場を訪ね、就農のきっかけ、暮らし、農法などをつぶさに見て生まれた作品。40年以上のベテランから新規就農者、家族農業や一人農業…… 多彩な生産者がいて、多様な農業の形がある。「多くの人に有機農業の世界を知ってほしい」という、志賀さんの熱い想いがこめられた、いわば有機農業の入門編。



### ●『食の未来』（米国制作）

国際有機農業映画祭誕生のきっかけとなった作品で、遺伝子組み換えの問題を農業、食、政治、経済などの多方面から追い、それに取って代わる道を示した画期的な作品。



## 10周年記念シンポジウム

### 『未来を引き寄せる 有機農業運動がめざしたものと、めざすもの』

3人の有機農業関係者とともに日本の有機農業運動を振り返り、これから方向性を探ります。

パネラー 星 寛治さん (山形・農業)

稲葉 光國さん (栃木・民間稲作研究所)

関塚 学さん (栃木・農業)

# 成田空港問題に関する四者協議会への申し入れ書 (要旨抜粋)

2016/9/26

地球的課題の実験村 9・14相談会参加者一同

成田空港大拡張計画に対して、地域住民に開かれた公正な議論の場を望みます。

1、私たち地球的課題の実験村は、「成田空港問題シンポジウム」「成田空港問題円卓会議」の中から生まれた地域的・国際的活動団体です。円卓会議後の「地球的課題の実験村構想具体化検討委員会」が、1998年11月以来、「成田空港問題を超越して農的価値を基礎に地球的課題に取り組む」活動を、農業問題、環境問題、国際的民衆連帯やT P P反対運動など、さまざまな分野で行ってきました。

2、いま、成田空港大拡張計画が、住民不在の密室審議の中で決定されようとしています。2本の滑走路の新增設と騒音被害の質的量的増大。このような計画は単なる「成田空港の機能強化」という、いわば今までの延長のように称されるものではありません。被害や影響がとて「対策」の充実で補完できる規模ではないからです。成田空港の役割とその規模、内陸空港としての制約—地域との共生といった根本的な問題を大きく転換しようとする、いわば成田空港大拡張計画であると認識すべきものです。

しかし、ここまでの審議・協議はすべて「四者協」（国交省・成田空港会社・千葉県・周辺9市町の首長らで構成）の中だけで、いわば住民不在で進められています。9市町の首長らも地域住民の土地や家、集落の運命について全面的な委任を受けているわけではありません。

地域住民、一般市民には会議の告知もされず、参加も呼びかけらず、意見表明の機会も与えられない「密室」で、住民の生命・生活や地域の運命にかかわることが審議され決定されようとしています。そのような「決定」を、あとでいくら丁寧の説明されても、それはただ「お上の決定の押し付け」にほかなりません。

3、現在の成田空港のあり方は、「成田空港問題円卓会議」で決められたものです。

空港建設とりわけ2本目の滑走路に対して、意見や立場の異なる参加者らは、それぞれの立場から意見を戦わせ議論しました。当時でも25年に及んだ「力の対決」と地域社会の分断対立に終止符をうつことが共通の悲願でした。そのために「地域と共生できる空港とはいかにあるべきか、その建設はいかになされるべきか」、さまざまな角度立場から議論が行われました。そして、自分たちの主張のすべてを押し通すのではなく、それぞれがある部分を律し抑制することで、相互の信頼関係、話合いの土台がつけられ、その立場から従来とは違う新たな提案や意見が生まれたのです。

4、住民参加、情報の公開—共有、公正な議事と会議の運営。大拡張計画に対処するには、皆に認められる民主的な議論の場が必要不可欠です。

「四者協」は現在の手続きを停止し、「どのような場をつくれば、この大拡張計画が住民参加で審議できて、住民に承認されるのか」を、まず審議すべきです。「傍聴者」も含めての多様な意見表明やそれを入れての公正な議論、議事運営がどのようにすれば可能になるのか。同席できない住民にも情報が公開され共有され、議論が地域ぐるみでされていくにはどうすればいいのか。これらのことをまず審議すべきです。

5、以上、「円卓会議後の検証」と「民主的な話し合いの場」について、意見表明させていただきたいと考え、次回の「四者協」への参加を申し入れるものです。

-----○-----

9月27日の四者協は、3500m新滑走路、B滑走路の1000m延長、5時から25時までの飛行と夜10時以降の便数制限の撤廃を「決定」した。

# 住民の睡眠時間を削ってまでの機能強化とは！？ ハドメを失い暴走する成田空港

実験村村民 平野靖識

成田空港問題シンポジウム（1991・11～93・5）で、それまでの建設手法が民主的でなかったと反省された成田空港は続く円卓会議（1993・9～94・10）で、空港問題の理性的な解決が探られた。その時点では横風用と平行滑走路は作られておらず、当然議論はその用地をどうするかが焦点となった。反対同盟（熱田派）は空港反対・推進の相対立する勢力が解決を得ようとするならば、双方思いの一部を断念すべきであるとして、現（滑走路1本）空港の存在を受け入れるとし、国・公団の側には残りの建設計画の断念を求めた。熱田派農民は虫食いの買収され放置されている2期用地は、地球の生命系を持続可能なものにしていく試みを実践する場に開放することを求めた（地球的課題の実験村構想）。国側は使用頻度の少ない横風用滑走路の凍結は認めたが2500mの平行滑走路はどうしても必要と主張した。そして「地域に多くの影響を及ぼす内陸空港であるとの内省の上に立って…自己抑制的な視点から騒音問題に関し最大限の配慮が必要」と認め、平行滑走路完成時の離発着回数はA・Bあわせて20万回程度とするとした。内陸の成田空港が地域と共生を図っていくためには抑制的な運用が必要との認識を参加各員が共有していた。

会議の行司役隅谷<sup>すみや</sup>調査団は所見を取りまとめ「国側が平行滑走路の建設を必要と主張するのは理解できる」とした上で「平行滑走路の用地の取得のためにあらゆる意味で強制的手段が用いられてはならず、あくまでも話し合いにより解決されなければならない」、円卓後については「新しく設けられる共生懇の公正な光のもとに計画予定地および騒音下住民との合意を形成しながら進めること」と示した。その共生懇は、成田空港地域共生委員会の名で1995年から活動を開始し、空港の運用について円卓会議の合意事項に照らした点検を行い、空港当局にいくつかの改善を求めるなどした。しかし肝心の2期整備では地域との合意なしの暫定滑走路建設、さらにはその北伸を許すなど、滑走路整備に必要とされた合意要件の監視には全く力を果

たさなかった。運営基盤を空港公団の支出に頼っていたため公団民営化に伴い、会社法の会計監査になじまないとの理由づけで、2011年に業務終了した。今は「共生・共栄会議」となり空港機能強化の道具立てのひとつになっている。

今回の成田空港の機能強化案は、3500mの新並行滑走路の新設、現B滑走路の3500m再北伸、そして夜間飛行禁止時間帯を午前1時から同5時の4時間に短縮（現在は夜11時から翌朝6時の7時間）するというものである。これにより年間飛行回数50万回を達成するという。

年間飛行回数50万回と言えば“内陸成田空港は抑制的に使い20万回程度とする”とした円卓合意を考えるなら、1.5倍の機能の新空港をもう1つ作るのと同じくらいの大転換である。円卓会議では今後空港を作る場合、計画段階から地域住民の参加を求めその改廃を含め合意を得ていくことが、旧運輸省側から示されている（「空港と地域の共生に関する基本的な考え方について」）。単なる機能拡大として説明し、理解を得ていくではすまない。

夜間飛行の制限緩和については2013年3月から気象条件などやむをえない場合は午後11時台でも離発着を認める弾力的運用が行われている。このとき、今後この禁止時間帯のなし崩しの短縮はしないことが、厳しく約束された。円卓の議論の中で夜間安静時間は8時間は必要との同盟の主張に対し、議論の末7時間になった経緯がある。それを4時間にすると、住民を生存条件以下におくことを公の議論の場に持ち出すこと自体常軌を逸している。説明を受けた成田市議会の空対委員からも「恐ろしいという感じを受けた。飛ばない時間が4時間になると安眠への不安がある」（9・29千葉日報）との声が上がった。当然のことだろう。

実験村からの「申し入れ書」は、ハドメを失って暴走している成田の空港機能強化論議に住民の参加する公正な場を求めて緊急に出したものである。

## 麦・大豆畑トラストからの報告

金森史明

まずは麦刈りからの報告です。6月18日と19日に麦刈りをしました。

今年は麦に似た草が多く除草が困難だったことと、6月に雨がたくさん降ったために、<sup>コンバイン</sup>機械での収穫ができなかったので、“人海戦術”で臨みました。6月18日には3人、19日には5人の方たちが来てくれました。どうもありがとうございます。

<sup>バインダー</sup>刈り取り機も借りてきたのですが、いかにせん草が多すぎて、絡まってしまい稼働できませんでした。2日間にわたって作業をしましたが、結局刈ることができたのは全体の1/4程度の面積でした。収穫量は約90kgでした。

11月13日が麦の種まきです。すでに麦に似た雑草が生えていて、のっけから先行き不安です。麦と大豆とを同じ畑ではなく、別々の畑でやろうか検討しています。



## タイ農民運動の指導者 バムルン・カヨタさんが 久しぶりに三里塚に



バムルン・カヨタさんが東北タイから11月8日、やってきました。通称ヨーさん。実験村の海外村民といえるヨーさんは、農業を営む百姓でありと同時に、タイの農民運動の偉大な指導者です。三里塚には何度も訪れ、柳川さんや石井さんとは古い友人です。また、アジア農民交流センターにも設立から関わり、山形の百姓、菅野芳秀さんや佐賀の農民作家山下惣一さんとも古いなじみです。

今回の訪問は、ゴムを中心とする農業を営む彼の友人とその長男、農業を営みながら地域で農民の組織化やむらづくりで活動する彼のメイ、彼の養女の9歳の少女の5人グループ。来日した4日に山形県置賜と訪ね、置賜百姓交流会と交流しました。その後神奈川でアジア農民交流センターの年次寄り合いに合流、8日は木の根ペンションで実験村のメンバーが集まっての歓迎と交流会を行い、ペンションに一泊しました。通訳として、アジア農民交流センターの事務局長で久里浜の居酒屋店主である松尾さんが同行してくれました。

翌日9日は、柳川さんの畑、三里塚物産、石井さんの自給農場ミルバを訪れました。ミルバでは石井さんが手作りのピザで昼食をもちました。タイの農民の状況について聞かれたヨーさんは、<sup>東南アジア諸国連合</sup>ASEAN自由貿易圏や中国などとの自由貿易が進み、農産物価格が値下がりしている状況を紹介、先行き不安な状況にあると話していました。

大野和興

## 【少しなが〜い編集後記】

前の「実験村通信」にTPP（環太平洋経済連携協定）の問題点を指摘していただいた記事を掲載しましたが、先日のアメリカ大統領選挙で「TPP離脱」を公言してきたドナルド・トランプ候補が当選したことで、その批准・発効が頓挫する可能性が強まっています。

もっとも、私たちがTPPに反対を唱えてきたのは日本の農業生産にとって脅威となることもさる事ながら、「非関税障壁の撤廃」とか「規制緩和」の口実で農産物や食料品の安全が脅かされることへの重大な懸念があるからでした。

これに対してトランプ次期大統領のTPP反対は、「アメリカの利益第一主義」の観点から「アメリカの得にならない自由貿易」には反対し、関税障壁を高くして「アメリカ産業の栄光を取り戻す」ためのワンステップであり、「食の安全」とか「環境保全」とは何の関係もない「経済利得至上主義」に過ぎません。もっとも「保護貿易と関税の強化がアメリカ産業を復活させる」なんて幻想は、いずれ雲散霧消してしまうに違いありません。

それでもTPPの頓挫は、農産物や食料品を「大量生産の工業製品」と全く同列に扱い、あらゆる地域的特性や歴史的背景を無視する「グローバリズム至上主義」の暴走を止める、大きな転機となる可能性があるのではないのでしょうか。

(K)



## ～村民になってください～

実験村は、いまの社会のありようと、私たち自身の暮らしを足元から問い直そうという試みです。国際空港という巨大開発に抗し続けてきた三里塚の地を拠点に、人々と結びあいながら水を、土を、森を、人を大切にする“もうひとつの里”づくりをめざします。あなたもぜひ、村民になってください。

- 村民費 3000円
- 麦大豆畑トラスト 5000円
- 通信購読のみ 1000円

郵便振替

00140-3-92555

地球的課題の実験村

<問い合わせ>

電話/FAX

0476(26)1654 平野

メール:

jikken-mura@jcom.home.ne.jp

URL:

<http://yamasoft.jp/jikken-mura/>

## 「村民からの手紙」 大募集です。

村民の近況、お知らせ、提案などなど、村民のみなさんからの手紙を募集中です。

現地の企画や行事になかなか参加できない村民のみなさんも、手紙でいろんなことを知らせて下さい。

【手紙の送り先】

〒286-0046 千葉県成田市飯仲297-4

平野 靖識

■編集・発行／2016年11月18日「地球的課題の実験村」

■購読料／年間1,000円（年3回）

■67号編集担当／佐々木希一・平野靖識

■共同代表／柳川秀夫 千葉県山武郡芝山町香山新田22  
大野和興 埼玉県秩父市大宮5734-4